

## 活動報告

団体名	NGO 災害救援チーム フェニックス救援隊
活動名	被災者の生活再建と心のケア活動を通じた地域コミュニティの活力強化活動
活動期間	2016年10月～2018年3月
活動の成果	<p>東日本大震災以降、大規模災害地域の活動を行っています。現場での被災形状はそれぞれ特徴があり、直後の生活再建に対する活動は瓦礫撤去等がメインですが、どこの被災現場でも時間の経過と共に心のケアやコミュニケーション強化という課題が生まれます。今回の熊本地震で特に力を入れたのは未来を担う子供達のケアを継続的に行うこと、また仮設住宅でのコミュニティ強化を心のケアを通して行うことでした。前者は本助成金を用いた広安西小学校6年生を対象とした保養キャンプという形で実行できました。また、仮設住宅での心のケアやコミュニケーションの強化活動は、益城町をベースにしたLove &amp; Earthと南阿蘇村をベースにしたローカルメディア3と連携することにより、集会所等で延べ5回実施することができました。実施にあたり保養キャンプも仮設住宅での心のケアで共通しているものは「音楽と食」です。音楽を聴いて心を和ませ、演奏が終わったらお茶会や炊き出しで地域の人達と語り合う、互いにコミュニケーションを深めるというやり方です。益城町と南阿蘇村の仮設住宅住まいの方々を対象とした活動ができました。有難うございました。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>ボラサポ・九州への寄付者の皆様へ。お陰様で本助成金を受け、益城町と南阿蘇村を対象とした「心のケアとコミュニケーション強化」の活動を行うことができました。活動の中心は、益城町の広安西小学校と木山仮設団地、南阿蘇村は小森と長陽仮設団地とし、本助成金での活動や当隊や連携チームの単独支援を組み合わせ、互いに協働することにより、継続支援が可能になったと思います。とりわけ保養キャンプへの本助成金を受けたことにより、より多くの児童をキャンプに参加してもらうことができました。また仮設団地での炊き出しやお茶会での食材等の買い出しでは、被災し開店できていない商店や開店まもない商店で食材等を購入し、炊き出しを行ってもらい、些少ではありますが売り上げにも貢献できたものと思います。これらの活動を通じて長期化する復興現場において、被災者の心のケアやコミュニケーション強化、またボランティアの協働活動の深まりの一躍が担えたのではないかと考えています。皆様から善意の寄付金を役立てさせて頂く機会を得たことに、心より御礼を申し上げます。有難うございました。</p>

(活動のようす)





